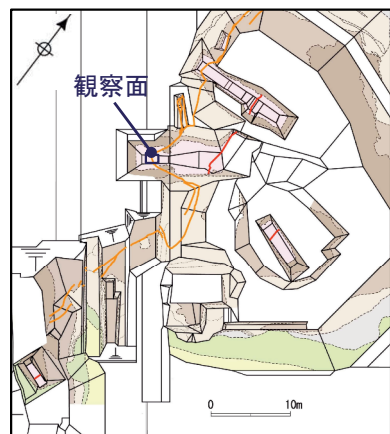


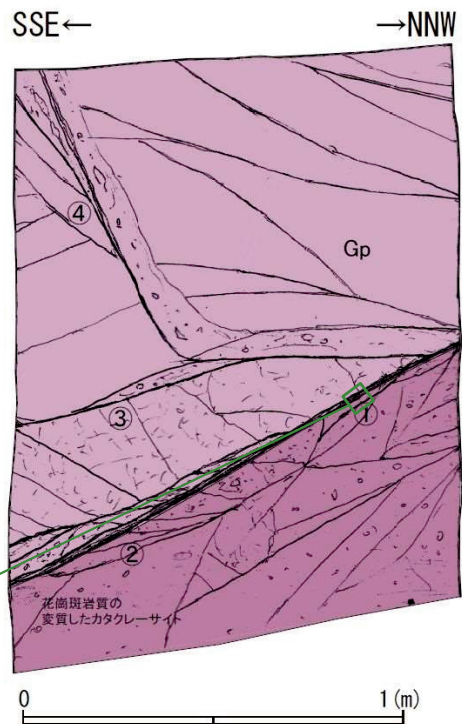
2.2.1.6 1-1ピット (1-1ピット底盤 掘り込み前)

・K断層はWNW-ESE方向で高角度南傾斜である。

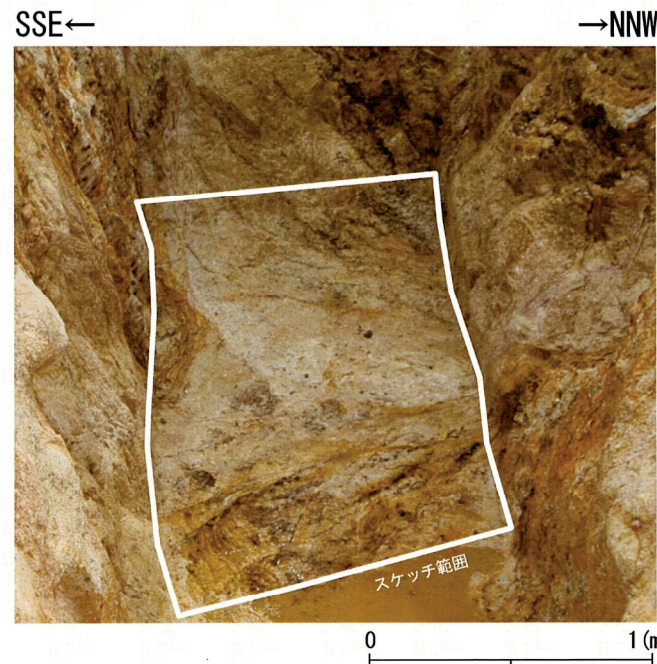


調査位置図

断層ガウジ・断層角礫の幅
計測箇所
(1-1ピット底盤1)



T.P.14.9m

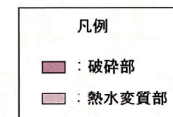


撮影:2013年6月

※緑線は破砕部性状一覧に記載したデータの計測箇所

現場確認:2013年6月

- ① f: N63° W53° S 断層ガウジ (灰褐色粘土: 幅 3 ~ 6mm) 軟質
- ② f: N67° W62° S 断層ガウジ (灰褐色粘土: 幅 3 ~ 5mm) 軟質
- ③ f: N54° W74° S 断層ガウジ (灰白色粘土: 幅 1 ~ 4mm) 軟質
- ④ f: N18° E86° W
- f: せん断面

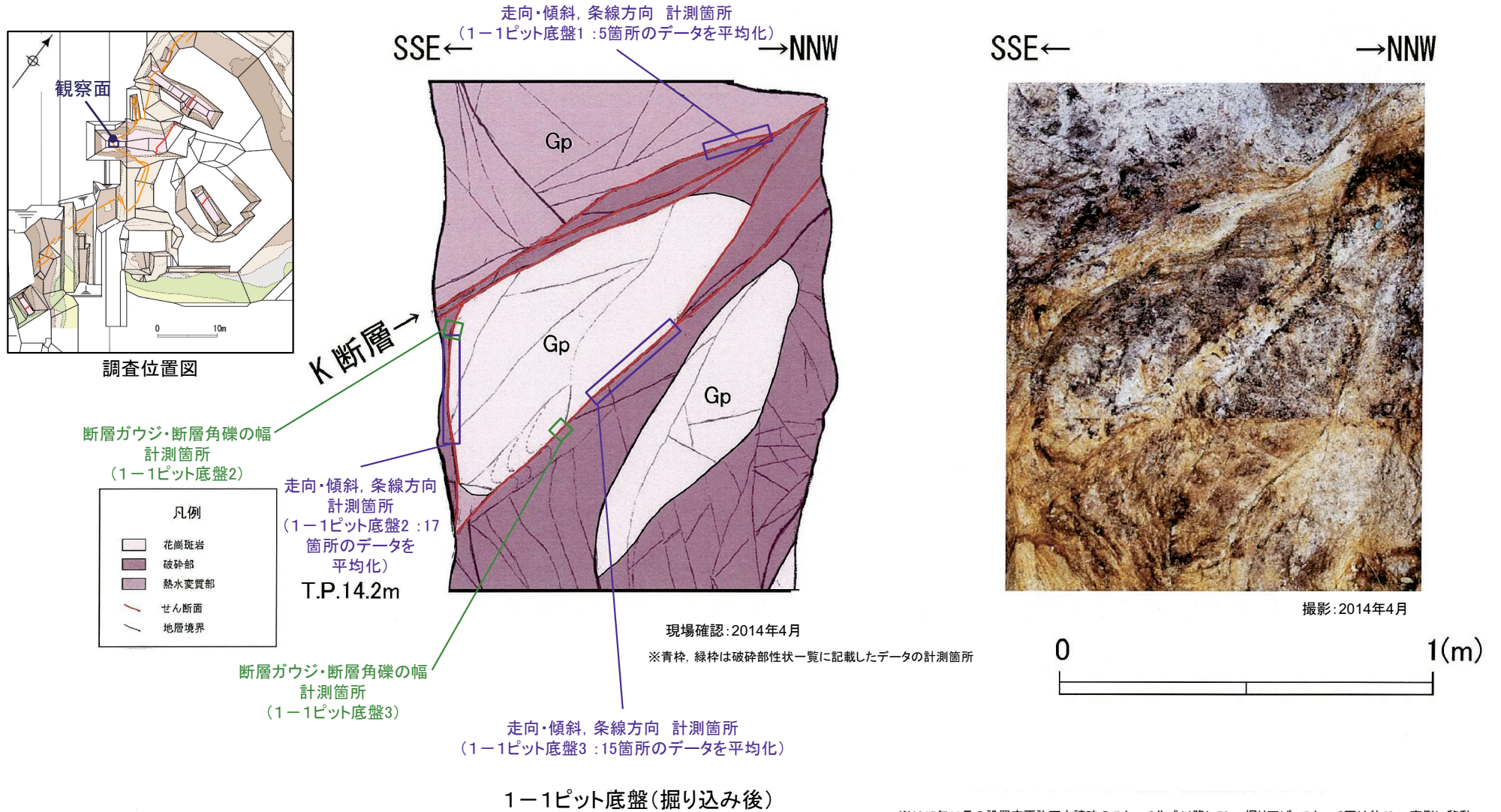


Gp: 花崗斑岩: 橙色~浅黄橙色 (7.5YR7/6 ~ 10YR8/3)
全体的に変質を受け、やや軟質である。断層周辺部では、
花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトが分布し、
礫混じりシルト質砂状を呈する。

1-1ピット底盤

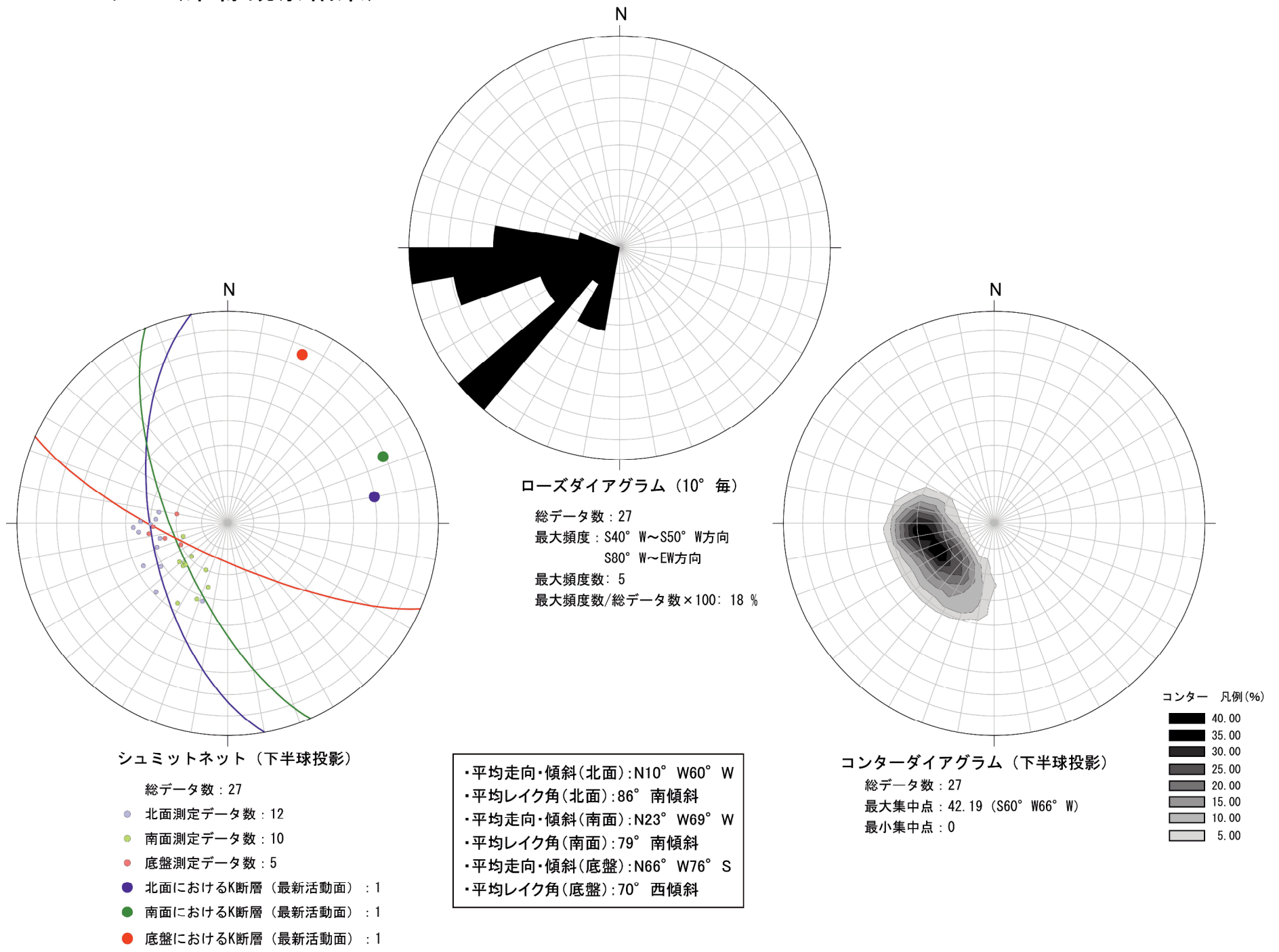
2.2.1.6 1-1ピット (1-1ピット底盤 掘り込み後)

- 1-1ピット底盤については、2015年11月の設置変更許可申請時のスケッチ作成以降にサンプリングを実施したことから、**底盤を整形し再観察**を行っている。
- K断層は**WNW-ESE方向で高角度南傾斜**である。最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、**縦ずれ成分が卓越**する。



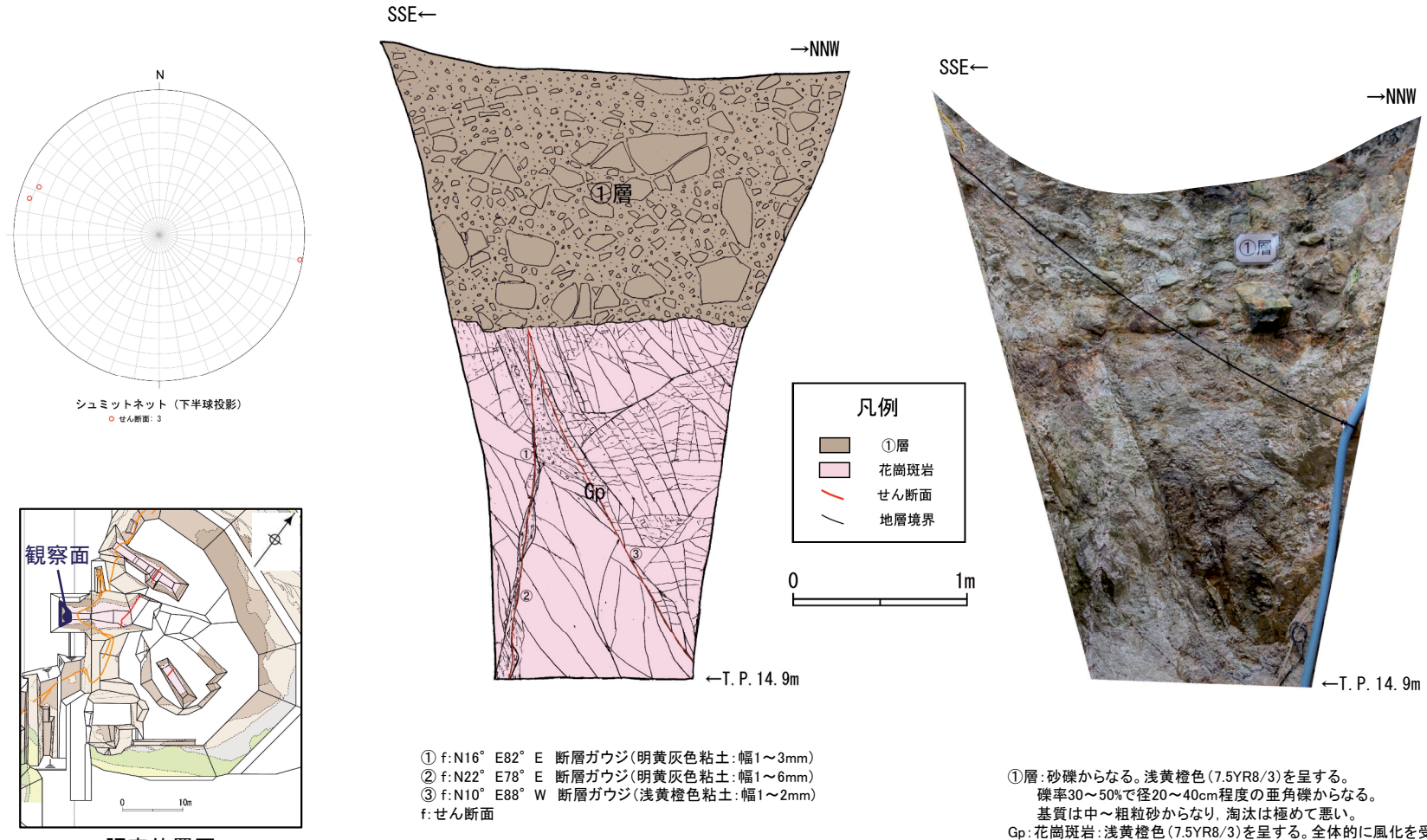
※2015年11月の設置変更許可申請時のスケッチ作成以降に70cm掘り下げ。スケッチ面は約40cm東側に移動。

2.2.1.6 1-1ピット (条線観察結果)



2.2.1.6 1-1ピット (1-1ピット西面)

- D-1トレンチ1-1ピット西面の基盤岩内には、北面で認められたK断層と連続する熱水変質を伴うNNE-SSW方向、高角度東傾斜の破碎帯が認められるが、これを覆う①層に変位・変形は認められない。



現場確認: 2013年6月

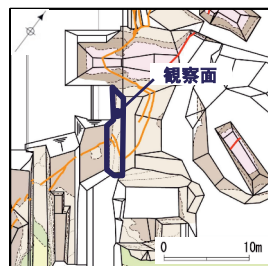
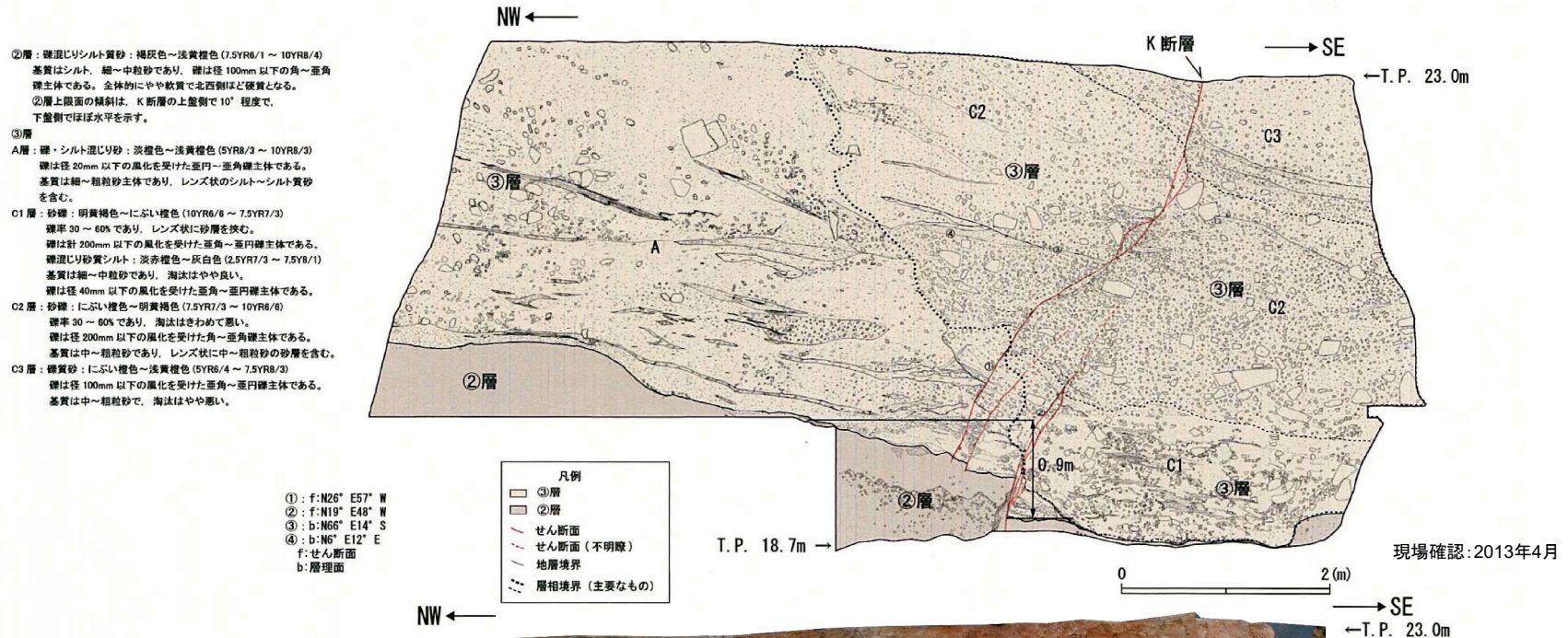
撮影: 2013年6月

余白

2.2.7 擁壁撤去法面

2.2.1.7 擁壁撤去法面

- D-1トレンチ擁壁撤去法面では、**②層**、**③層**を逆断層センスで変位させる**K断層**が認められる。
- K断層による**②層**上面の鉛直変位量は、**撓曲変形を含めて0.9m**である。



調査位置図



2.2.8 原電道路ピット～ふげん道路ピット